課題①　文章を読んで、当てはまることわざを考えましょう。

何の予定もない日曜日、たまには外へ出ようと公園に出かけたら、ペンキぬりたてのベンチで洋服をよごしてしまいました。家でおとなしくしていたら、こんな目にあわずにすんだかもしれません。

[redacted]は、こんなふうに、何かをしようとしている人に**「思いがけない災難にあうかもしれないから、気をつけなさい」**と、注意をうながす言葉です。江戸時代に作られた、いろはかるたの一句目としても採用されています。

しかしこのことわざは、まったく逆の意味で使われることもあります。何の予定もない日曜日、公園へ出かけたら、好きな子とばったり会うことができました。家にいたら、こんな幸運にはめぐまれなかったでしょう。これもまた、[redacted]に当たる、です。

向こう見ずな人にとっては「少し落ち着きなさい」。用心深い人にとっては**「たまには冒険してみなさい」**。人によってとらえ方が変わるなんて、不思議なことわざですね。

課題②　文章を読んで、当てはまることわざを考えましょう。

家に来たばかりの子犬が、こわごわとこちらの様子をうかがっていたら、どうしますか？　おもちゃできげんをとってみたり、優しく「おいで」と呼んでみたり……あらゆるやり方で、自分が敵ではないということを示そうとするのではないでしょうか。片や子犬のほうは「そこまで言うなら」とばかりに、少しずつこちらへ近づいてくるはずです。

このようなペットの態度こそ、まさに[redacted]自分に「好きだ」という気持ちを示してくれる相手を、自分も同じように、こころよく受け入れる様子を表すことわざです。

水が魚にとって住みやすい場所なのは、魚に水の中で生きよう、水と親しもうとする気持ちがあるから。昔の人のそんな考えから生まれた言葉なのです。また、相手の態度を見てから、こちらの行動を決めようという意味でも使われます。

課題②　文章を読んで、当てはまることわざを考えましょう。

中学校に通っているお兄ちゃんの部屋は、いつもぐちゃぐちゃ。洗っていない洋服や、食べこぼしたおかしなどが、そこら中に散らばっています。そんなある日、お兄ちゃんの部屋から「ぎゃーっ！」という悲鳴が聞こえてきました。あわててかけつけると、そこには一ぴきの大きなゴキブリの姿があったのです！

「だから片づけなさいって言ったでしょ！　お兄ちゃんはいつも[redacted]なんだから！」

と、お母さんがぷんぷんおこりながら言いました。

[redacted]とは、仏様の名前や、お経を唱えること。どんなにえらいおぼうさんが唱える念仏も、[redacted]にはそのありがたみがわかりません。このことから、**人の意見やアドバイスをまったく聞き入れない態度を、**[redacted]と言うようになったのです。

せっかく人間に生まれたのに、お母さんの話を聞かなかったお兄ちゃんは、ガックリとうなだれたのでした。

課題②　文章を読んで、当てはまることわざを考えましょう。

[redacted]とは、江戸時代に使われていた言葉で、染め物屋さんのことを指します。お客さんの着物やはかまを染める仕事をしていながら、自分は白いはかまをはいている……これはつまり、人のものを染めるのにいっぱいいっぱいで、自分のはかまを染める時間がないということを表しています。[redacted]とは、**人からたのまれたことをするのにいそがしくて、自分のことをするひまがない**ということを意味することわざなのです。美容師さんがボサボサの髪のままでいる、シェフが家ではレトルト食品ばかり食べているなど、いろいろな例が思い浮かびますね。

一方、この言葉は最初「[redacted]は、たとえ白いはかまを着ていようとも、一滴も青いシミをこぼさぬように仕事をする」という、職人のプライドを表すとされていたという説もあります。

課題②　文章を読んで、当てはまることわざを考えましょう。

お医者さんは、みんなの健康を守ってくれる、とても大切な職業です。最近ではテレビや雑誌などに出て「○○をするととても健康にいい」などとアドバイスするお医者さんも増えてきましたね。

では、お医者さんになる人はみんな、自分の健康に気をつかい、病気にならないよう努力しているのでしょうか。

健康のすばらしさを教えてくれるはずのお医者さんが、自分の健康を気にせずに暮らすように、**何かの専門家が、その専門分野に対して注意しないことを、[redacted]**といいます。

「作家だけれど、まったく本を読まない」だとか、「建築士なのに、かたむいている家に住んでしまった」だとかも、[redacted]にあたります。

どれだけ知識があって、えらそうにふるまっていても、自分でそれを実行していなければ、まったく説得力がありませんよね。

似た意味の「紺屋の白袴」（P94）も読んでね！

課題②　文章を読んで、当てはまることわざを考えましょう。

戦国時代、豊臣秀吉に軍師（戦のときの戦略を考える役）としてつかえていた、黒田官兵衛という武将がいました。官兵衛は、本能寺の変（一五八二年）で織田信長が死ぬとすぐに、明智光秀を倒す作戦を考え、秀吉に天下をとらせるために働きました。その後、自分が力をつけすぎて、秀吉から裏切りを疑われたときには、家を息子にゆずったり、おぼうさんになったりして、自分に戦う気がないことを示したといいます。これらの官兵衛の行動は、まさに[redacted]

[redacted]たといえるでしょう。[redacted]とは、**危険な状態になる前に、そうならない方法を考えたり、それをすぐに実行できるようにしておく様子**を、安全な道でも油断せず、杖を使って歩く様子にたとえたことわざです。

失敗してから「先にああしておけばよかった……」などと、後悔しないよう、注意したいものですね。